

令和4年度 学校関係者評価報告書

専門学校ファッションカレッジ桜丘は「夢の創造」・「文化の創造」を提供し続けるエクセレント・カレッジ (excellent college) を目指すことを標ぼうし、夢を創造し、文化を創造することが、ファッションを教授する服飾系高等教育機関の基本と考える。

専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価の結果に関して客観性と透明性を高めるとともに、学外の有識者から専門的助言を受け、外部評価を得ることを目的として学校関係者評価を実施しましたので報告致します。

1、実施年月日 令和5年3月31日

実施校 専門学校ファッションカレッジ桜丘

2、学校関係者評価委員

小野芳行 (元YKK株式会社)

椎野伝一 (有限会社丸伝代表取締役 流通総合コンサルタント)

西室充子 (卒業生 日本ファッションクリエイター協会)

学校関係者

関 太 (校長)

岩寄達弥 (事務長)

菊池伊都子 (教務部長)

3、評価方法

令和4年度 専門学校ファッションカレッジ桜丘自己評価報告書に対する
学校関係者評価

4、評価項目

- (1) 教育理念・目的・人材育成
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学習成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の募集と受入れ
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

令和4年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

桜丘学園は豊かな人間性を身につける「人間教育」を重視している。いかに多くの専門的な知識を身につけても人間的な魅力が無ければ職業人として大成することは叶わない。人間的な魅力を高めるにはいかに多くの友人を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係が醸成され相互に人間的な魅力が高まると思う。新型コロナウイルスの影響でコミュニケーションの機会やグループワークなど協力して何かをやり遂げる機会が減り、個別学習の結果から個人主義が台頭する中で、学園内でいち早く平常の教育環境を確保することに注力した1年だった。

基準1. 教育理念・目的・人材育成に関してご意見をお聞かせください。

*学園の教育理念は不変であるが、取り巻く環境の変化などへ鋭敏に対応し、桜丘学園が更なる高みを目指し、「人間教育」を重視した教育を通し専門知識を有する人間教育の実践を図って欲しい。

*コミュニケーション能力を身につけるべく、話し方スキルや敬語等の言葉遣い、会話や相手の意図を読み取るリスニングや文章のリテラシーを向上させるための耐震マナーの授業を、1年生の前期で受けさせたらどうか。同時に、身だしなみや社会一般の服装ルールなどの基本知識も見つけさせたら就職活動にも生かせるように思います。

(成人年齢が18歳に引き下げられ社会的責任が重くなっている。成人としての振舞の重要性を再度認識させる教育を実践したい。)

基準2. 学校運営

第七分野(服飾・家政)ファッション専門課程及び第一分野(工業)デジタル専門課程の2課程体制で教育の幅を広げることができ、学校運営の安定化の基盤を作った。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、入国する外国人留学生の大幅な減少により、デジタル専門課程の学生確保が苦戦した。当初より、外国人留学生の入国規制がかかっていることは認知していたが根本的に責任感と危機感の欠如により、対応が遅れ、最悪の結果を招いてしまった。

基準2. 学校運営に関してご意見をお聞かせください。

*新型コロナウイルスの収束時期は未だ未定ではあるが、各種対応などにより、沈静化の状況が見通せるまでに来ていることに鑑み、特に中期計画に於いてはこれらの状況・見通しを最大限活かした計画の立案を図って欲しい。

(ファッション教育とIT教育の両軸で今後も学校経営の柱にすべく注力したい。)

基準3. 教育活動

新型コロナウイルスの影響を受け、世の中の生活様式が変化した。接触から非接触へ。対面からリモートへ。外食からデリバリーへ。ファッション産業もZOZOタウンやamazon、楽天に代表されるようにインターネットでの販売が全体の20%、2兆5千億円にまで

拡大した。また、宣伝、販売促進手法も紙媒体の雑誌からInstagramに代表されるソーシャルネットワーキングサービス（SNS）が主流になりつつある。世の中全体がアナログからデジタルへシフトチェンジしている。こうした中、ファッション専門課程では従来の教育カリキュラムでは実践で活躍するスキルを身に付けられないと判断し、eコマースやSNSマーケティング、ファッションWEBビジネスの授業を拡充して対応にあたり、就職活動で成果を示した。デジタル専門課程では、プログラミングの授業を1年間から2年間学べるように再編成し、習得言語も増やした。eコマースの授業ではネットショップ検定実務士補の試験を実施、また、コンピュータワークでも情報処理技能検定試験を実施し高い合格率の結果を残しパソコンスキルの向上に寄与した。

基準3. 教育活動に関してご意見をお聞かせください。

*生活様式の変化への機敏な対応を図り、これらを教育の現場に落とし込んでいることなどでは学園・先生方・関係者の皆さんの並々ならぬご苦労があることかと思いますが、これらの教育活動によって成果も確実にようになってきているとのこと。これらの深堀りと迅速な対応の継続をお願いします。

*Eコマースの長所だけでなく、リアルショップに比べた短所も具体的な事例を挙げて教えた方が将来のキャリア作りに役立つように思う。クリエイティティやスキルだけではなく、ビジネス面での知見も必要かと。①決してローコストではないこと。②送料高騰の問題。③ささげ業務の手間。④広告宣伝。⑤商品を手にとれない問題など、リアルショップにはない課題が多い。

Amazonがリアルショップを増やしている理由もその辺に。

(IT化の流れは変わらないのでより、教育の深度を深め迅速に対応したい。)

基準4. 学修成果

学修成果の可視化の一環として実施している各種検定受験推進は継続している。ファッションクリエイティブ科が受験するパターンメイキング検定3級は従来2年生が受験しているが、本年度は1年生に受験希望者があり、放課後専科を実施して教育をし全員合格に至った。学習に対する前向きな姿勢は高く評価できる。2年生の3級合格率は91%と昨年の86%を上回った。ファッションビジネス科の1年生が受験するファッション販売能力検定3級は合格率82%、昨年88%でわずかながら低下。2年生の3級は合格率25%、昨年も25%と低迷が続いている。1年生が受験するファッションビジネス能力検定3級は合格率30%、昨年82%と大幅に低下、原因はつかめていない。2年生の2級は合格率27%、昨年25%とファッション販売能力検定同様に低迷している。色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1、の合格率は75%、モジュール2も89%と高い合格率を確保した。デジタル専門課程の日本語能力試験（JLPT）はN1が1名、N2が5名で大幅減、やはり新型コロナウイルスの影響で日本語能力が低下している。日本語能力試験以外にも新規に検定を実施。ネットショップ検定実務士補の合格率は85%、情報処理技能検定試験は90%と高い合格率を残した。成果発表のプレゼンテーションの機会も昨年同様実施、論理的思考や表現力、ストレス耐性に寄与している。学内2大コンテストであるファッションビジネス科2年生を対象とするFCSプロモーションコンテストは2月に開催し、同月開催のファッションショーでの作品を評価するFCSファッションコンテストは3年ぶりに

一般のお客様をご招待しグループ賞を選出していただいた。また広く学習の成果をご覧いただくためInstagramLIVE配信を実施した。就職支援に関しては、新型コロナウイルスの感染状況も収束に向かいつつあり、ファッション専門課程の就職率は75%と昨年を5ポイント上回った。デジタル専門課程の内定率は65%と昨年より低下傾向。

基準4. 学修成果に関してご意見をお聞かせください。

*学修成果は可視化が可能であり、明確な数値目標も可能であるので、この設定(より高みを目指した)と検証と成果を向上させる教育指針の設定などを図って欲しい。

*ファッション科における評価尺度が検定合格率だけというのはやや片手落ちのような印象です。もっと実務的なカリキュラムを導入すべきでは。①諸々のファッションデザインコンテストへの応募の拡充。②ディスプレイコンテストやビジネスアイデアコンテストなどへの応募。③企業とのインターン制度を充実させ、企業に学生の能力や知識、技術の評価をさせる。など。

(現在、多種のコンテストには応募、参加している。一時期新型コロナウィスの影響で中止になっていた活動も再開しているので、ご提案を前向きに検討したい。)

基準5. 学生支援

1年生の37%、2年生の19%が奨学金や就学支援制度を必要としている。令和4年度も高等教育の就学支援新制度の認定を受けて金銭面での学生の支援体制を充実させることが出来た。また、就職支援に関してもリモートと対面とのハイブリット型の企業が多く、学内施設、設備を使っての就職活動を希望する学生が多く、リモート説明会、リモート面接、リモートグループディスカッションの対応やエントリーシート作成、模擬面接練習など手厚くサポートができた。

基準5. 学生支援に関してご意見をお聞かせください。

*学生支援に関しては、学園が中心となり大きな成果にむすびつけて頂いたとのこと。学園の努力等に感謝いたします。学生たちの大きな目標・課題は教育現場での知識の習得などと就職にあると思います。就職に際しても多大な努力を頂いているとのことですが、この継続と更なるサポートも併せてお願いいたします。

*何度か提案をしていますが、優秀な学生に対する入学金、授業料免除などの特待生制度は作れないのだろうか。模擬面接などは、本校の教職員がやるのではなく、実際に採用業務に携わっている企業の人事担当者をお願いするのもアイデアかと。

(企業側もアフターコロナの対応が様々で、今後連携をとり対応したい。)

基準6. 教育環境

新型コロナウイルスも収束が見え始めた為、学内での授業以外に校外学習の機会を増やすことができた。直接企業に訪問し、展示会を見学したり、直接企業の担当者からレクチャーを受けることでより臨場感のある教育が実践できた。また、デジタル専門課程では、特定技能の資格取得の説明会や留学生受け入れ企業の説明会などより、就職を意識した特別講義を実施することができた。

基準6. 教育環境に関してご意見をお聞かせください。

*企業訪問や展示会見学など校外学習は生徒さんたちにとって、新たな発見などが得ら

れる貴重な機会となることでしょうかから今後も更なる機会の創出・充実を図って下さい。デジタル専門課程に於いては専門知識の習得が大きな課題と推察しますので資格取得の機会の充実・拡充を図っていただきたい。

*カリキュラムの中に企業での実習を組み入れ、企業側に成績評価をしてもらい、成績に反映させたり、実習終了を単位取得の条件にしたらどうでしょうか。3DCADの導入など、ファッションのDXに取り組むカリキュラム編成と、ハードウェアの整備は急務だと考えます。アパレルDX関連の外部セミナーの聴講や一線で活躍している専門家の特別授業を受けさせたり、(港区産業振興センターの無料セミナーはお奨めです。)

また学年末のファッションショーをバーチャルでやったりしたらどうでしょうか。

(企業側の大半が現業業務が多忙で学生教育に関心を示さないのが現状。DX推進は重要課題なので是非参考にしたい。)

基準7. 学生の募集と受入れ

ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)に精通しているコンサルタントと契約し、学生募集の見直しに着手。学園の競争優位性や弱点を検証。PR方法などを検討し、次年度に向けた広報活動戦略を立案した。また、学生全員へのヒヤリングを実施、学生の満足度調査も兼ね学園の良いところ悪いところを顕在化し学生募集にもつなげる情報とした。ファッション専門課程の学生募集は例年と大きな変化はなく、デジタル専門課程は、留学生の入学制限の煽りを受け入学者数を大幅に減少する結果となった。

基準7. 学生の募集と受入れに関してご意見をお聞かせください。

*新型コロナウイルスもあり社会が大きく変革した数年でありここから得た変化への対応を各種ツールなどを活用し学生の募集対応に当たっていただきたい。デジタル専門課程においては、留学生の動向が大きく影響するものと推察しますがこの過程での動向が学園の経営に大きな影響を与えうるのでここには特に注視・注力していただきたい。

*もっとファッション業界の面白さや仕事の内容、必要なスキルを紹介するような内容にならないだろうか。SNSについてもページ制作や運営の部分だけでなく、業界の事情やマーケットに精通しているコンサルタントはいないのだろうか。業者任せにするのではなく、コンテンツについて監修・提案できる人材を付けるべきだと

(ファッション専門学校で学ぶ学生数が16,000人を割り込み、年々減少している。ファッション企業からの情報発信が少なく、魅力を伝えにくくなっている。企業と連携して情報発信に注力したい。)

基準8. 財務

18歳人口の減少。専門学校第7分野(服飾・家政)に進学を希望する学生が1万6千人を割り込むなど、ファッションの地盤沈下が著しい状況で、留学生教育のITコースを立ち上げ、経営の安定化を図ったが、新型コロナウイルスの影響で振り出しに戻った。資産運用面でも米国の金融引き締めの量的緩和停止とインフレ抑制のための利上げにより、不安定な相場環境となり想定したキャピタルゲインを得ることができなかった。市場の動向が見通せない為、分散投資を計ったが相場全体が低迷でリスクヘッジにはならなかった。

基準8. 財務に関してご意見をお聞かせください。

*財務基盤の安定が学園（企業）の根幹であります。ファッションの地盤沈下が著しい昨今に於いてファッション関連での多くの生徒さんたちの獲得は困難と推察されます。財務の安定化にはITコースでの安定した生徒の確保による教育活動収支安定化を図っていただきたい。

（学校経営の根幹は学生募集であるので、今後もファッション専門課程、デジタル専門課程とも早めの対応で、募集活動に注力したい。）

基準 9. 法令等の遵守

文部科学省、東京都、千代田区からの通達や情報は、定例の役員会議、教職員全体会議、教員会議の場で常に情報は共有されている。また、日常ではA l r i t C l o u dを活用して迅速に情報を共有するシステムを活用している。昨今、若年層がソーシャルネットワーキングサービスに不適切な投稿をして社会問題化している。学園でもソーシャルメディアの利用に関する注意をソーシャルメディアポリシーなどの作成により注意喚起していきたい。

基準 9. 法令等の遵守に関してご意見をお聞かせください。

*昨今は SNS など毎日のように法令遵守に反する投稿などを目にするが、学園（企業）に於いては、法令遵守は必須であり、様々な機会を活用しこの弊害などについて注意喚起を実施していただきたい。

（法令順守に関する教育の機会を今まで以上に増やしていきたい。）

基準 10. 社会貢献・地域貢献

SDGs やサステナブルファッション、ソーシャルビジネスなどどのように教育の現場に落とし込むか、産学協同プロジェクトの場合は一過性であり継続性に乏しい面があった。高校生の関心の高い衣装製作をカリキュラムに導入する方法を模索する中でデジタル専門課程でプログラミングをご教授頂いているLance Digital Strategy 社がアイドルを育成しており、そのアイドルグループがSDGs を分かりやすく伝える普及活動のプロジェクトに参加していることが判明。SDGs 17 のゴール「7：作る責任、使う責任」持続可能な消費と生産のパターンを確保するをテーマにアイドルグループ、青山 Rabness の衣装を製作してそのプロジェクトを応援するカリキュラムを構築。2030 年のゴールに向けた長期的な社会貢献活動を推進するカリキュラムのプロセスが完了する。

基準 10. 社会貢献・地域貢献に関してご意見をお聞かせください。

*2030 年までの長期活動での社会貢献活動が緒に就いたとのこと。長期間に渡る活動の中では困難な事態への直面も想定されるが、学園・生徒さん・先生方・職員の皆様が一丸となり掲げた活動の遂行・完遂をお願いします。

*学校が与える形のプロジェクトではなく、学生にはテーマだけを与え、具体的なプロジェクトを提案させるところからやらせたらどうか。

（学生自ら行動できることが望ましい。ご提案を前向きに検討したい。）